

提出期限：〇〇〇〇年〇〇月〇〇日（〇）

# 東京実務補習所 〇〇〇〇年期第〇回課題研究

テーマ記載欄 ※テーマ全文を省略せずに記載してください

あなたが尊敬する公認会計士について、その理由とともに述べなさい。

研究報告書作成にあたって ※各事項にチェックをしてください

私は、研究報告書作成における以下の事項を遵守し、研究報告書を提出します。

- 私は、ルールを遵守し他の文献やウェブサイトからの引用には引用符を用いてその出典を明らかにし、無断引用を行っていません。
- 私は、他の補習生の研究報告書を参考にしたり、写したりしていません。
- 私は、自身の経験等に基づく記述をする場合において、業務の過程で入手した情報など守秘義務の原則に抵触する記述を行っていません。

期	〇〇	班	〇〇	補習生カード 番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
氏名	〇〇	〇〇	字数	〇〇〇〇字	

はじめに

本報告書では、私が尊敬する公認会計士である田中靖浩氏を取り上げ、私が同氏を尊敬する理由について述べる。以下では、同氏への尊敬の念を込め、同氏を田中先生と呼ぶこととする。

## 第1章 田中先生との出会い

私が田中先生を知るきっかけとなったのは、田中先生の著書である「会計の世界史」<sup>1</sup>という書籍を読んだことである。この書籍は、公認会計士がなぜ世界史の本を書いているのだろうという点に興味を持ち、数か月前に手に取った書籍であったが、会計の歴史を世界史上の著名な出来事と絡めて紹介するという斬新な内容であり、あっという間に読み終えてしまった。そして、この書籍に対する興味とともに、このような書籍を執筆した公認会計士とはいったいどのような方なのだろうと、著者である田中先生自身に対する興味が湧いたため、私は、田中先生について調べてみることにした。

田中先生は、公認会計士試験合格後、外資系コンサルティング会社での勤務を経て、現在は田中公認会計士事務所の所長を務めており、経営コンサルティング、セミナー講師、書籍執筆等の業務を中心に活躍されている。また、落語家の方とのビジネスイベントを開催するなど、世間の一般的な公認会計士のイメージとはかけ離れた活動もされているようである。

以下では、私が、このような活動をされている田中先生を尊敬する理由について述べることとする。

## 第2章 田中先生を尊敬する理由

私は、公認会計士試験に合格する以前から弁護士として活動していたため、試験合格後は、「公認会計士の資格を取得した後、弁護士と公認会計士のどちらをメインの業務として行うつもりなのか」という質問を周囲から投げかけられることが多くなった。私は、弁護士業務の中で会計知識の必要性を感じたことから公認会計士を志すことを決めたため、この問いに対しては、弁護士業務を中心にやっていくつもりである、とあまり深く考えずに回答していた。ただ、そのように回答しつつも、この質問が、弁護士か公認会計士のどちらかを選択しなければならないという前提に立っていることにどこか違和感を感じていた。

ちょうどそのような想いを抱えていた頃、私は田中先生について調べており、田中先生が資格取得者のキャリアプランについて執筆されたある記事<sup>2</sup>を読む機会を得た。その記事の中で、田中先生は、「せっかく勉強して取った資格に縛られるのはもったいない。そんな「資格のしっぽ」に縛られるのはやめましょう。」<sup>3</sup>と読者に語りかけていた。このワンフレーズを読み、私は、私の感じていた違和感の正体はまさにこれだったのだ、とこれまで抱えていた疑問が腑に落ちたという想いを抱いた一方で、私も先入観によって資格に縛られかけていたのではないかと、とはっと気づかされる想いも抱いたこ

---

<sup>1</sup> 田中靖浩（2018）『会計の世界史』日本経済新聞出版社

<sup>2</sup> 田中靖浩（2018）「資格取得者の不幸な勘違い 「士」はおまけに使おう」

<sup>3</sup> 注2、3頁

とを今でも鮮明に覚えている。私をはじめ多くの資格取得者は、自分の取得している資格の中で何ができるのかという考えになりがちである。もちろん、士業としての専門的な業務分野で活躍されている先輩方は大勢おり、そのような業務が社会にとって必要な業務であることに変わりはない。ただ、田中先生のおっしゃるとおり、初めから資格ありきで自分のキャリアを決める必要は全くなく、そのような考えは、かえって自らの可能性を自分自身で制限してしまうことになるのではないか。

その点、田中先生は、第1章で紹介した経歴のとおり、従来 of 公認会計士の業務範囲に囚われることなく、自らこの言葉を体現する生き方をされてきたように見える。ただ、どのような分野であっても、これまで誰も試みたことのない新しい分野に挑戦するには、相当な勇気と覚悟が必要である。実際に、田中先生も、当初から現在のスタイルで順風満帆にキャリアを積み上げてこられたわけではなく、様々な試行錯誤や苦勞の末に、現在の立場を確立されたようである。それでもなお、新しい分野に果敢にチャレンジし、現在も新しい公認会計士像を作り続けている田中先生は、他の公認会計士の先生方や私たち実務補習生にとって、社会の中での公認会計士の役割を見つめ直すきっかけを与えてくれる存在であり、また、私個人にとっては、今後のキャリアプランを考える上でのヒントや指針を与えてくれる存在でもある。

このように、田中先生は、公認会計士という資格を最大限に活用して、先生独自のやり方で社会に貢献しようと考えておられ、現在活躍されている公認会計士の先生方の中でも唯一無二の存在であると思われる。そして、私も、田中先生の存在や考え方を知ったことによって、専門家として、自分のスキルを最大限に生かして社会に貢献できる方法を模索していこうと、より広い視野を持って考えることができるようになった。このような理由から、私は、公認会計士である田中先生を尊敬している。

おわりに

私が田中先生のことを知ったのは数か月前であり、未だお会いしたこともない。ただ、私のキャリアプランに対する意識が、田中先生の存在によって大きな影響を受けたことは確かである。そうであるから、いつか田中先生にお会いする機会があれば、その際に、単なる「公認会計士」や「弁護士」としてではなく、私自身はこのような活動を行っていますと自信をもってお話しできるようなキャリアを積み重ねていきたい。そのような日を心待ちにし、日々専門家としての素養を磨いていきたいと考えている。

以上

出典・参考文献

- ・ 田中靖浩（2018）『会計の世界史』日本経済新聞出版社
- ・ 田中靖浩公認会計士事務所オフィシャルホームページ  
<http://www.yasuhiro-tanaka.com/index.html>

アクセス日：2019年1月3日

- ・ 田中靖浩（2018）「資格取得者の不幸な勘違い「士」はおまけに使おう」  
<https://style.nikkei.com/article/DGXZZO26667870Y8A200C1000000>

アクセス日：2019年1月3日